東京都立福生高等学校

令和 8 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 古典

教　科：国語　科　目：古典　単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

使用教科書：	教科書：高等学校古典探求　古文編・漢文編（第一学習社） 副教材：読んで見て聞いて覚える　重要古文単語315　四訂版（桐原書店）

教科　国語　の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考力、判断力、表現力等】	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者のとの関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目　古典　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	古典の文の成分の順序や照応，文章の構成や展開の仕方について理解を深める。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	単　元　1　小式部内侍が大江山の歌の事（『古今著聞集』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	6
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	登場人物の心情を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。	教科書等				文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、登場人物の心情を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などにおいて、主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元　2　歌ゆゑに命を失ふ事（『沙石集』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	6
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	作者の主張を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。	教科書等				文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、登場人物の心情を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	定期考査（第１学期中間考査）/返却と解説									1
	単　元　3　よろづのことは、月見るにこそ（『徒然草』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	7
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	作者の主張を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、作者の発言の意図を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などにおいて、主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元　4　世に語り伝ふること（『徒然草』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	7
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	作者の主張を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、作者の発言の意図を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	定期考査（第１学期期末考査）/返却と解説									1

東京都立福生高等学校

令和 8 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 古典

教　科：国語　　科　目：古典　　単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

使用教科書：	教科書：高等学校古典探求　古文編・漢文編（第一学習社） 副教材：読んで見て聞いて覚える　重要古文単語315　四訂版（桐原書店）

教科　国語　の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考力、判断力、表現力等】	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者のとの関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目　古典　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	古典の文の成分の順序や照応，文章の構成や展開の仕方について理解を深める。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
2学期	単　元　5　ゆく川の流れ（『方丈記』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	7
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	登場人物の心情を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、作者の発言の意図を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などにおいて、主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元　6　安元の大火（『方丈記』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	7
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	登場人物の心情を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、作者の発言の意図を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	定期考査（第２学期中間考査）/返却と解説									1
	単　元　7　渚の院（『伊勢物語』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	7
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	登場人物の心情を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、登場人物の心情を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などにおいて、主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元　8　初冠（『伊勢物語』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	7
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	登場人物の心情を捉える。				古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、登場人物の心情を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	定期考査（第２学期期末考査）/返却と解説									1

東京都立福生高等学校

令和 8 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 古典

教　科：国語　科　目：古典　単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

使用教科書：	教科書：高等学校古典探求　古文編・漢文編（第一学習社） 副教材：読んで見て聞いて覚える　重要古文単語315　四訂版（桐原書店）

教科　国語　の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考力、判断力、表現力等】	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者のとの関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目　古典　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	古典の文の成分の順序や照応，文章の構成や展開の仕方について理解を深める。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
3学期	単　元　9　小野の雪（『伊勢物語』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	7
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。	和歌に着目しながら、登場人物の心情を捉える。				古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、登場人物の心情を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などにおいて、主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元　10　狩の使ひ（『伊勢物語』）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。		○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	6
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。	和歌に着目しながら、登場人物の心情を捉える。				古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	教科書等				必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	文法事項について理解しようと粘り強く努力し、登場人物の心情を理解しようとしている。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元　11	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	単　元　12	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（学年末考査）/返却と解説									